

…主イエスのまなざしと出会う…  
神さまに、隣人に、そして社会に仕える



# 会報

発行所:日本福音ルーテル教会女性会連盟  
〒169-0072東京都新宿区大久保1-14-14  
TEL/FAX:03-3207-2340  
Web:https://www.jelc-w.org  
E-mail: jelc-w@big.or.jp  
発行人:八木 久美・編集人:廣瀬美由紀

2024.5.15  
168号  
25期6号

## JELCW ニュースレター

Japan Evangelical Lutheran Church Women

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい ローマの信徒への手紙12章15節

### 巻頭言

## 「主のまなざしの中で」

日本福音ルーテル帯広教会・札幌教会 牧師 岡田 薫



昨年の国会での改悪入管法の審議にキリスト教界は協力して反対の声をあげましたが、6月9日に可決・成立してしまいました。この反対運動の中で、特に在留資格のない方や、仮放免の方々が困難な状況におかれていること、また成立から1年

以内に施行されることになっている新しい入管法によって、さらに困難な状況に追い込まれる方々の存在が見えてきました。そこで、この反対運動で協力しあったキリスト教団体が、市民運動とも手を取りあって、困難な状況にある外国人住民の方々と、直接的に支援できるように「難民・移民なかまのいのちの緊急基金(難民・移民基金)」の取り組みが始まりました。その運営委員の一人として活動させていただいています。

それまでの私は、日本における難民・移民政策について何となく知っている、でも、積極的に関わることはあまりありませんでした。けれども、この数年の間に起こった様々な事件や政府の対応などを見聞きするうちに、失われた命に対する責任は無関心であった私にもあるということに気づかされ「隣人と共に生きて行こう」と偉そうに説教していた割には自分が想定していた隣人の中に困難の中に置かれていた外国人の姿が果たしてあったのだろうか?と問われることとなりました。それから、オンラインでの祈り会や学習会、抗議活動、デモにも可能な限り参加するようになり、自分が想像していた以上に日本の状況がオカシナことになっていることに愕然とさせられています。

情報が伝わらない、流れていてもうまくキャッチできない、新しいニュースが流れると記憶が上書きされてし

まい、未解決なままでもどんどん忘れ去られてしまう…。私自身が、祈り会や学習会へ誘われ参加したこと、現実に触れたことなどを通してそれまで心が向いていなかったところに心を向けるようになり、祈りに導かれたように一人でも多くの人に知ってもらえば、少しでも社会は良くなるのでは?との希望をもって機会あるごとにご紹介させていただいています。基金の規模は小さく、出来ることは限られていますが「あなたを/あなたたちを決して忘れていない」というメッセージを届けるべく活動し、賛同者、なかまを求めています。

主イエスが《わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。》(ヨハネによる福音書15章12節)と弟子たちに告げられた時、そのまなざしはおそらくまっすぐに弟子たちに向けられていたことでしょう。そして今、そのまなざしは私たちひとりひとりにも向けられています。主の愛のまなざしの中で、私たちはあらゆる隔ての壁を越えて共に生きよと促されている、主が愛してくださっているから、私たちも互いに愛し合うこと/仕え合うことができる、と私は信じています。

—プロフィール—

神水教会出身。1999年に按手を受け、大江教会・宇土教会に着任。2002年4月より北海道特別教区へ移動。札幌北を中心として、新礼拝堂建築、教会合同や札幌教会100年記念に関わる。2017年より帯広教会に転任。釧路教会、池田教会の仕舞などに関わり現在は広域兼牧担当。同世代や若い世代の発信に励まされつつ、フェミニストと言えるようになって、生きるのがラクになり益々楽しくなっています。愛猫2匹と同居。